

人と自然をつなげよう！

～しろやま倶楽部の活動～



かつての豊かな自然を取り戻し、そして、人と自然との結びつきを育むために、四日市市にある三重城山緑地を中心に活動している市民団体、三重西里山を愛する会「しろやま倶楽部」をご紹介します。地域に溶け込んだ「しろやま倶楽部」の活動は、私たちの身近にある里山に親しみ、里山に興味を持ち、里山のために自ら行動する人づくりに力を入れた活動でもあります。

三重城山緑地と

「しろやま倶楽部」

三重城山緑地は、四日市市の三重地区にあり、三重団地開発時に、およそ一万平方メートルの丘陵地が住民に親しまれる公園として整備された場所です。この地は室町時代の城跡であり、標高78mの中央最高部は本丸（一の丸）といわれ、二の丸（南端）と三の丸（西南端）と思われる小区域には、まだ当時の土塁が残っています。

文化遺産を残しつつ、地域の人々の憩いの場所として整備された当時は、手入れが行き届いた公園だったようです。しかし、時が経つにつれ、次第に放置されるようになり、モウソウチクに覆われてしまいました。地元の人々は、荒れて暗く閉ざされた三重城山緑地に怖くて近付けず、子どもたちには、「行ってはいけない」と言わなければならぬ場所になっていたそうです。

そのような状況で迎えた平成15年、三重西小学校の5年生が総合学習の一環として三重城山緑地の整備に着手し、自然教室で習った道具を使って竹を切り始めたのです。

楽しく遊べる山にするための奉仕作業の始まりです。これを機に、平成17年、地域で何とかしようと、自治会を通して集まった方々が、三重西里山を愛する会「しろやま倶楽部」を発足させ、活動を始めました。

スタート当初は50名足らずだったメンバーも、現在は85名となり、7月から9月を除き、毎週土曜日に活動しています。また、三重城山緑地での活動のほか、年間を通して、地域の幼稚園や小学校、地域の公民館などでも、工作教室や体験学習を行うようになりました。このようにたくさんの人に楽しんでもらいながら地元にある里山をアピールし続けているのです。

発足から12年目を迎えた三重西里山を愛する会「しろやま倶楽部」。身近にある里山とかかわりながら、人と自然との結びつきを育む活動をご紹介します。

【お話を伺った人】



三重西里山を愛する会
『しろやま倶楽部』

こばやし かずつら
代表 小林 一貫さん

趣味の炭焼きが縁で『しろやま倶楽部』の活動に参加。
三重西小学校のコミュニティ・スクール運営委員も務めています。



三の丸と思われる区域に設置された『西坂部城跡』説明板。（現在は調査が進み、『坂部城跡』と称されている。）